

腫瘍センター

1. スタッフ

腫瘍センター長	部長・教授	藤井 博文
副センター長	教授	仲澤 聖則
緩和ケア部	部長・准教授	丹波嘉一郎
精神腫瘍部	講師	岡島 美朗
臨床腫瘍部	講師	長瀬 通隆
運営委員会委員	がん診療各科、看護部、薬剤部	

2. 診療部の特徴

平成18年10月に院内のがん診療を横断的に統括し発展させ、多方面にわたるがん医療を安全かつ効率的に提供することを目的として発足した。自治医科大学の中で「がん対策基本法」に則ったがん医療の実践に向け中心的となって活動している。「放射線治療」、「化学療法」、「集学的治療」、「緩和ケア」、「がん登録」、「がん相談」、「がんの教育体制」、「がん研究」の8つの作業部会を設置し、院内のみならず、当院の周辺地域、全国にわたるがん診療の均てん化を目指している。

放射線治療装置と人員を整備し、高度な治療方法にも対応し、患者への説明や教育の充実をさらに進めている。

化学療法については平成19年3月にリニューアルした外来治療センターでの業務を拡大してきており、新規抗がん剤や従来入院で実施してきた化学療法を外来でも実施できる体制を整備し実践してきている。

診療科横断的な集学的治療を進め、Cancer Board Conferenceを行い、院内におけるがん医療に対する意識と知識の標準化を図っており、院内におけるがん治療カンファレンスの充実を進めている。

緩和ケア部の活動により、積極的な治療後の緩和ケアについても、緩和ケア病棟だけでなく地域連携を利用した展開も円滑に進められてきている。

外来看護師と精神腫瘍部の専任医師、臨床心理士の積極的な介入により、がん医療における大きな問題となる精神的な面での援助が充実してきており、がん患者と家族へ満足度の高い医療をさらに広く提供することを目指している。

がん登録は医療情報部が中心となって活動し、情報管理士の参入により院内の膨大な全がん患者の把握が可能となった。

がんに対する相談窓口としてのがん相談も充実し、セカンドオピニオンにも積極的に対応し、多様なニーズに答えている。

がんの治療成績向上は国民の誰もが欲しているところであり、そのためには臨床研究が不可欠である。新

規抗がん剤の開発治験や臨床試験を積極的に行っており、臨床試験センターと連携し、周辺地域の患者さんへより先進的な治療の提供を今後も進めていく。

文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」で採択された当学の「全人的ながん医療の実践者養成」では、医学部大学院を中心として、大学院生だけでなく、学部生、研修医、院内職員、地域の医療者をも含んだ教育体制の整備を目指して活動している。院内外の講師を多数招き、臨床腫瘍学講義を開催・配信しながら、がん医療を実践する医療者の教育に努めている。